

# 令和5年度 沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

## 1 趣旨

- (1) 本県児童生徒一人一人の当該学年までの学習の定着状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。
- (2) 各学年の教科分析を通して、年度末において自校の落ち込みのある領域を把握し、習得状況を揃える取組に生かす。

## 2 実施日・対象学年・教科

(1) 小学校

令和6年2月14日(水)

対象学年	教科
第5学年	国語、算数
第6学年	国語、算数

(2) 中学校

令和6年2月16日(金)

対象学年	教科
第1学年	国語、数学、英語
第2学年	国語、数学、英語

## 3 教科の調査結果 (3/2時点)

(1) 小学校

対象学年	教科	受験した児童数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の児童の割合%(昨年度値)
第5学年	国語	14,444	64.2	29.0	6.8	<u>7.7 (4.6)</u>
	算数	14,483	58.5	35.5	6.0	<u>7.3 (27.9)</u>
第6学年	国語	14,548	66.0	30.3	3.7	6.1 (5.6)
	算数	14,554	48.2	42.3	9.5	<u>22.6 (15.7)</u>

(2) 中学校

対象学年	教科	受験した生徒数(人)	正答率(%)	誤答率(%)	無解答率(%)	正答率30%未満の生徒の割合%(昨年度値)
第1学年	国語	14,019	50.8	40.2	9.0	<u>18.0 (16.4)</u>
	数学	13,980	36.5	49.9	<u>13.6</u>	<u>40.6 (29.3)</u>
	英語	13,957	37.9	55.7	6.4	<u>40.3 (27.9)</u>
第2学年	国語	13,279	50.1	40.2	9.7	<u>21.8 (19.8)</u>
	数学	13,242	43.2	43.9	<u>12.9</u>	28.2 (28.7)
	英語	13,132	49.0	46.0	5.0	<u>21.0 (26.1)</u>

## 4 結果の概要

(1) 小学校

第5・第6学年ともに国語の正答率が高く、算数の正答率が国語を大きく下回った。算数の問題の難易度が高かったとも言えるが、誤答率が国語よりも高く、特に第6学年の算数においては、誤答率が40%を超え、正答率30%未満の児童の割合も増加している。また、第5学年の算数においては、正答率30%未満の児童が大幅に減少した。

(2) 中学校

第1・第2学年とも国語の正答率が最も高かった。また、第1学年の数学と英語の正答率が40%を下回った。誤答率が数学は約50%、英語は55%を超え、正答率30%未満の生徒の割合が全体の40%を超え大幅に増加した。第2学年の英語においては、無解答率が3教科の中で最も低く、正答率30%未満の生徒の割合も減少している。

## 5 各学年・各教科の状況と授業改善のポイント

### (1) 小5〈国語〉

正答率 80%以上の児童は 30.9%、正答率 30%未満の児童は 7.7%であった。正答率 80%以上の設問が 4 問、正答率 30%以下の設問が 1 問あった。

◆登場人物の気持ちについて、会話文を基に読み取り、読み取ったことの発表の仕方を捉えることに課題がみられた。

○指導にあたっては、複数の場面の叙述を相互に関連付けながら読んだり、交流することで、それぞれの考えが自分の体験や読書経験に基づいていたり、他の叙述と関係付けられていたりすることに気付くことができるようにすることが大切である。

### (2) 小5〈算数〉

正答率 80%以上の児童は 16.9%、正答率 30%未満の児童は 7.3%であった。正答率が 80%以上の設問が 5 問、正答率 30%以下の設問が 4 問あった。

◆数量の関係に着目し、目的に応じて比較し、方法を表現することに課題がみられた。

○指導にあたっては、日常生活の問題を解決することを通して、単位量当たりの大きさの意味について理解し、問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う授業づくりが大切である。

### (3) 小6〈国語〉

正答率 80%以上の児童は 27.1%、正答率 30%未満の児童は 6.1%であった。正答率が 80%以上の設問が 5 問、正答率 30%未満の設問が 1 問あった。

◆自分の考えたことを最後に書いて、全体をまとめる作文の書き方を捉えること、また、学年別配当漢字表に示されている漢字を文章の中で正しく使うことに課題がみられた。

○指導にあたっては、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く言語活動の設定や、同音異義語など、漢字のもつ意味を考えて、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが大切である。

### (4) 小6〈算数〉

正答率 80%以上の児童は 8.0%、正答率 30%未満の児童は 22.6%であった。正答率が 80%以上の設問が 2 問、正答率が 30%以下の設問が 7 問あった。

◆図形領域において、6年B(3)ア(7)円の面積の求め方で、公式が半径を一辺とする正方形の面積の 3.14 倍を意味していることへの理解に課題がみられた。

○指導にあたっては、文や図、既習の公式を関連付けながら、図形を構成する要素に着目し基本図形の面積の求め方を見いだす視点を教師が与えたり、まわりの人と一緒に考えたりしながら、考察の範囲を広げていくことが大切である。

### (5) 中1〈国語〉

正答率 80%以上の生徒は 7.0%、正答率 30%未満の生徒は 18.0%であった。正答率が 80%以上の設問が 1 問、正答率が 30%以下の設問が 4 問あった。

◆人物像を具体的に想像することや、描写と結びつけて考えることに課題がみられた。

○指導にあたっては、「身につけたい資質・能力」を明確にし、生徒が活用したり、試行錯誤したりできる等の言語活動のポイントをおさえて設定した言語活動を通して指導することが大切である。

### (6) 中1〈数学〉

正答率 80%以上の生徒は 5.3%、正答率 30%未満の生徒が 40.6%であった。正答率 78%以上の設問が 1 問、正答率 30%以下の設問が 6 問あった。

◆垂直二等分線の作図の方法について、線対称な図形の性質を用いて説明することに課題がみられた。

○指導にあたっては、基本的な作図において、見通しをもって作図したり、作図の方法を見直したりすることができるようにするために、基本的な作図の基となっている図形の対称性を捉える場面を設定することが考えられる。

(7) 中1〈英語〉

正答率 80%以上の生徒が 3.8%であった。正答率 30%未満の生徒は 40.3%、正答率 74%以上の設問が 1 問、正答率 30%以下の設問が 14 問あった。

◆社会的な話題について、話の概要をとらえることに課題がみられた。

○指導にあたっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を読んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。

(8) 中2〈国語〉

正答率 80%以上の生徒は 7.6%、正答率 30%未満の生徒は 21.8%であった。正答率 78%以上の設問が 1 問、正答率 30%以下の設問が 1 問であった。

◆文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めたり広げたりすることに課題がみられた。

○指導にあたっては、文章を読んで考えたことを具体的にするためには、関連する知識や経験を想起し、それらと結び付けることが重要である。

(9) 中2〈数学〉

正答率 80%以上の生徒は 8.3%、正答率 30%未満の生徒は 28.2%であった。正答率 80%以上の設問が 2 問、正答率 30%以下の設問が 7 問あった。

◆不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○指導にあたっては、確率を求めることができるようにするために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得るすべての場合の数とその事柄が起こり得る数を正しく数え上げられるようにすることが大切である。

(10) 中2〈英語〉

正答率 80%以上の生徒は 7.9%、正答率 30%未満の生徒は 21.0%であった。正答率 80%以上の設問が 3 問、正答率 30%以下の設問が 6 問あった。

◆まとまりのある文章を読んで、内容に沿った自分の意見を表現することに課題がみられた。

○指導にあたっては、スピーチや投稿文、感想など自分の考えや意見を英文で書く様々な言語活動を設定することが大事である。また、書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり他の生徒からコメントをもらったりして英文の内容や表現を改善していくことも大切である。

6 教科共通の課題

◆各教科における「記述式問題」から見える課題

出題の趣旨となる資質・能力に課題があるのか、「条件に沿って書くこと」に課題があるのか、各校での詳細な分析が重要である。

小学校 国語

◆物語文を読んで、読み取ったことを発表する文を書く。 小5 2 五 正答率 23.1%

◆作文の最後に、自分の考えたことを書く。 小6 3 六 正答率 47.2%

小学校 算数

◆重さを比べる方法を書く。 小5 4 (2) 正答率 16.9%

◆グラフに割合を表すときの端数の処理の方法について書く。 小6 3 (3) 正答率 30.3%

中学校 国語

◆引用した情報を使って、人物像について自分の考えを書く。 中1 2 (3) 正答率 24.6%

◆資料から引用した情報を使って人物像と自分の考えを書く。 中2 2 (3) 正答率 23.0%

中学校 数学

◆垂直二等分線の作図の方法について説明する。 中1 8 (2) 正答率 8.8%

◆確率を求め、理由を数学的な表現を用いて説明する。 中2 7 (3) 正答率 19.4%

中学校 英語

◆条件に従って、自分の学校や学校生活について紹介する。 中1 11 (2) 正答率 30.3%

◆まとまりのある文章を読んで、自分の意見を述べる。 中2 10 (3) 正答率 35.6%

○児童生徒が主体となり問題解決する機会と時間を増やす。  
○児童生徒が考えたり気づいたりしたことをアウトプットする時間と機会を増やす。

◆各教科で共通する課題

◆目的や「問い」を自分で明らかにして、条件に合うよう考え表現する力の育成

- ・条件を提示されて解いてはいるが、「条件に合っているか」の確認や、「誰に伝えるのか」「何のために伝えるのか」など、学習の対象や文脈から目的を自分なりに捉え、解決に導くことに課題が見られる。

◆課題が何かを明らかにし、解決を見通したり、振り返ったりしながら全体を捉える力の育成

- ・段落やまとまりなどで捉えることはできるが、全体を俯瞰して捉えて表現したり、自己を振り返ったりしながら解決に導くことに課題が見られる。

◆課題を解決するための知識・技能の育成

- ・設問によっては、課題解決するために必要な知識・技能の習得が不十分な部分も見られる。

7 共通実践事項

各教科の記述式の設問で、誤答率や無解答率の値が大きくなる傾向がある。その傾向を改善するために下記内容に留意した授業改善を図る必要がある。

- 子供から引き出したい「問い」を明確にし、その「問い」を生かすための教材研究や子供たちの思考を揺さぶる発問の吟味など「教師の手立て」を授業構想の段階で考える。
- 児童生徒が課題について自分の考えを持つ場を、単元や教材などの内容や時間のまとまり、一単位時間の授業で設定する。
- 話し合っただけで広がったり深まったりした考えを、ノート等にまとめたり発表したりするなど、アウトプットする機会や時間を計画的に設定する。
- 指導と評価の一体化の観点から、児童生徒の学習状況をしっかり見取り、フィードバックして学習改善・授業改善に生かす。
- 1人1台端末の日常的・効果的な活用で、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 各学校において、教科における共通する課題について分析し、「自分なりに考えること」「条件に沿って書くこと」「目的に応じて書くこと」を全教科において組織的な授業改善を推進する。
- 育成する資質・能力を踏まえ、文章を書く際には、書きっぱなし・書かせっぱなしにならないよう、観点を明確にした「推敲」や「交流」、教師による「見取り」や「フィードバック」等も併せて計画的に行う。

各学校においては、学習指導要領の目指す資質・能力の育成を、組織的・日常的な授業改善を通して推進し、児童生徒一人一人に合わせた効果的な支援を行う。

教師は、学びの連続性を意識し、児童生徒が学んだことを次の学習や家庭学習など様々な場面で活用したり、課題解決のために構想を立て実践し、自己の学びを振り返ったり改善していくような学びの充実を図るよう、日常的な授業改善を推進する。

参照 「『問い』が生まれる授業サポートガイド」

各教科の授業改善に向けて

子供たちが、課題解決へ向けて、自分なりに「問い」を立て考えるようにする。

子供たちが、他者や教材と関わりながら、学習の対象を捉え、課題解決へ向かうようにする。

子供たちが、学んだ事を他教科も含め様々な場面で活用し、確実に習得できるようにする。